

仙台湾並びに常盤沖旋網漁場調査報告 (第1報)

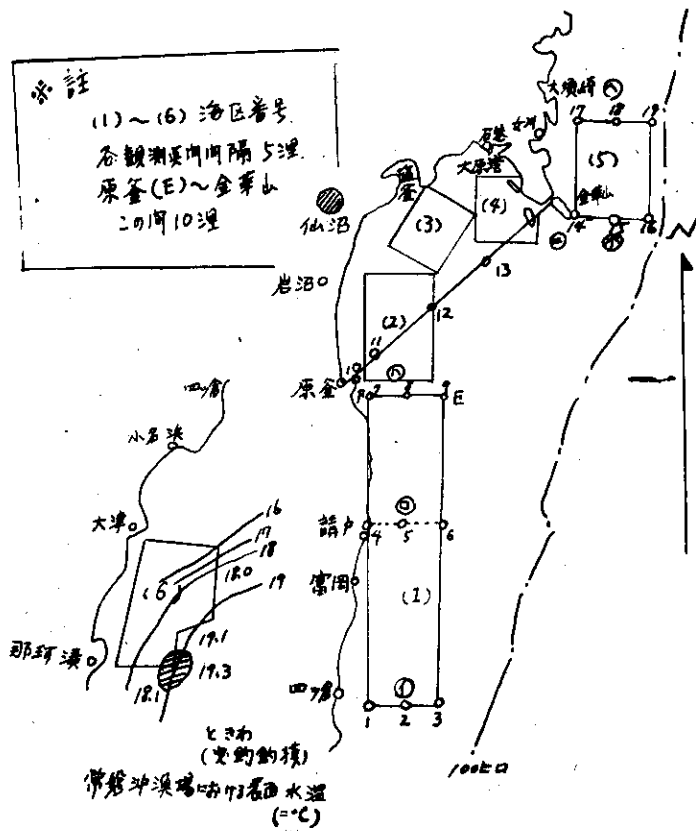
猿 谷 倫

I 要 旨

近年旋網によるマイワシの漁獲量が急増し、この漁場が仙台湾から常盤海区に形成されるようになった。この様な状況の中で旋網漁業者の要望と相俟つて上記の海域に形成されるマイワシを中心とした漁場の探索とその漁場環境要因の解明を目的として実施したものである。

探索調査の結果は超短波無線電話機、もしくは陸上電報等を利用しその都度各関係漁業者並びに出漁旋網各船に通報した。更にこれらの結果と海洋観測のデーターを蒐集すると下記の通りであつた。なお終始この調査に御協力を賜わつた関係各位に謝意を表すものである。

II 計 画



調 査 図

- 1 実施期間 昭和35年11月29日～12月8日
- 2 調査海区 別記調査図参照
- 3 調査船 沿岸指導船「ときわ」(26.25馬 200HP)
- 4 調査員 猿谷 倫 船長以下5名
- 5 調査要領

- (A) まず調査海域を決定、これにもとずいて調査海区を6海区に分類、海洋観測点を19点とした。
- (B) 調査は「ときわ」装備の魚群探知機28KC(湿式)と200KC(乾式)を利用海洋観測は順倒寒暖計による測温のみとし観測層は0m、10m、25m、100m、150m各層とした。
- (C) 調査の公報は27メガサイクル～150メガサイクル超短波無線電話機と陸上電報電話で調査結果を1日単位に集計しておこなうことにした。

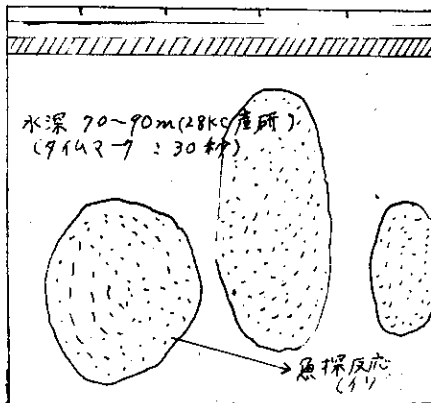
Ⅲ 経過並びに結果

11月29日「ときわ」は8時那珂湊港を出航、途中大津に寄港連絡方法を打合せ16時福島県四ツ倉港に入港した。翌日6時同港を出港してから計画にしたがいイワン漁場の探索調査を進め、12月8日第6海区の調査を終了し15時30分那珂湊に入港するまで原釜、塩釜、女川、渡の波等を根拠地として調査をおこなった。

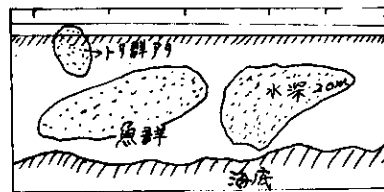
調査の結果を海區別に記述すると次の通りである。

(1) 海区

- (イ) 富岡南前～富岡東前水深(50～60m)鳥群多く魚探反応状況別図の通り(濃度 $\frac{1}{3}$ ～ $\frac{1}{5}$ 弱、時間10秒～15秒)水温15.4℃～14.4℃潮目南北に延びていた。(本反応は深さ20～30m)
- (ロ) 富岡北前～請戸南前水深(50～90m)東海区近くの水温状況は別図の通り。鳥群は(同図参照のこと)15℃台から沖に多いが魚探反応は顕著なものがない。
- (ハ) 請戸沖東北～北東水深(70～80m)鳥群散見魚探反応多し($\frac{1}{5}$ ～ $\frac{1}{4}$ 、10秒～15秒深さ20～30m)



1海区(請戸～富岡)



2海区(原釜近傍～岩沼)

(2) 海区

原釜東水深(18~20m)鳥群が多く広い範囲に魚探反応($\frac{6}{10} \sim \frac{7}{10}$), 発振線基準)時間20~30秒間に断続的にぼつぼつ反応海区水温13.1℃, 水色悪し又同地点北東5湊海区魚探反応あるもの少し。

この海区は全般に鳥群を見るも魚探反応は芳しくなかつた。海上時化となり調査中断し塩釜に入港。

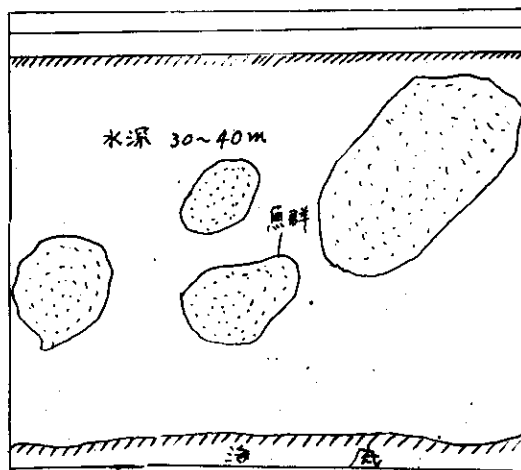
(3~4海区)

(1) この海区は全般に反応あり, 群は薄いが游泳層は中~下層に多く見られたが濃群は上層に反応があつた。(水温12.9℃)

(2) 本海区中, 田代~網地島海区水深20~70m)に鳥群散見, 別図のごとき魚探反応大なるものが連続あり, 層は中下層に多いが, 濃群は上~中層に探知された。(濃度 $\frac{2}{3} \sim \frac{2}{3}$ 強)時間20秒~30秒。

(5) 海区

女川~金華山にかけての海区は鳥群大魚探反応良好ブリハネらしきもの散見, 水温15.2℃(魚場調査範囲の中5湊以内の様)金華山20湊以内海区漁場においては調査期間中連続既報の通り, 旋網船によるブリ, サバ混りの魚を見ていた。(3~10トン 1ヵ月 漁獲)



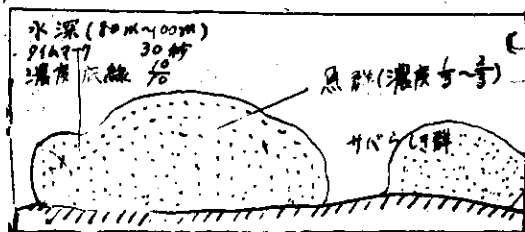
(6) 海区(銅山沖~湊川前)

(1) 大津前南東水深(60~80m)魚探反応游泳層30~40m濃群は海底から10~20m。

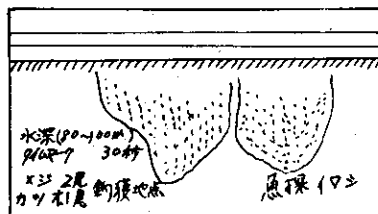
(2) 高戸浜前水深(100m)魚探反応20~30m水温18.0℃。

3~4海区(田代~網地)

(3) 那珂湊前水深(80~100m)広い範囲に鳥群多く魚探反応あり, 表面(濃度 $10 \sim \frac{1}{3}$ 時間30~40秒)メジハネ群多く本船同海区にて曳釣(メジ2尾, カツオ1尾)夫々(2.7Kg, 5.2cm), (1.6Kg, 3.6cm)3尾を釣獲した(胃内容物は中セグロ, ジャミ飽食状態)



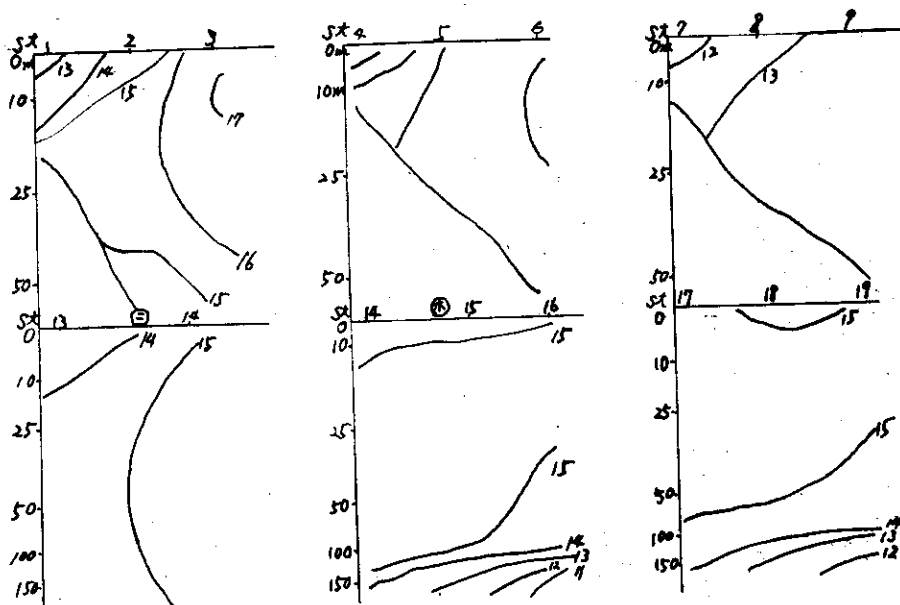
5海区(大津前海区)



6海区(湊前~夏海沖)

なお、今回調査海区範囲観測結果では北程寒冷水帯の突込みが目立ち、加えて下層冷水帯の上層への圧迫がうかがえる。

請戸沖東定線観測では17℃水帯の沖からの張り出しが目立っている。沿岸寄りの水温分布は濃縮傾向にあり、上下層の水温差がみられない。これらの状況からして本県沿岸部（鹿島灘）に良い漁場の形成が期待される。12月8日～9日鹿島～波上沖10キロ前後海区中、小セグロ混り、旋網船漁況（大型6,000メ～10,000メ、小型1,000メ良好漁況）



各観測点間水温垂直分布